

# 里楽暮住（りらくす）しもやま会

調査団体名	： 里楽暮住（りらくす）しもやま会	団体代表者名	： 倉地雅博
設立年	： 2013（平成23）年	対応してくれた人の名前	： 倉地雅博 会長
団体URL	： <a href="https://relax-simoyama.jimdo.com/">https://relax-simoyama.jimdo.com/</a>	調査員	： 清水雅子、近藤朗
活動拠点	： 下山支所、下山交流館	レポート作成者	： 清水雅子
取材日	： 2018（平成30）年2月3日		

### 活動内容

当会は地域への定住促進（Uターン、Iターン）を進める住民組織で、下山地区の各自治区からの代表17名がメンバーとなっている。

これまで、集落カルテの作成、婚活イベント「しもコン」の開催、空き家・空き地の発掘、新成人等に対する定住に関するアンケート調査、移住・子育てガイドブックの発刊など、内外へのアピールや定住促進のために多彩な活動を行ってきている。

また、平成29年度からは、更なる活動の充実と加速のため、人材育成・受け皿・交流の3部会構成で活動している。下山地区では、7つの各自治区で一戸の新規移住者を受け入れる目標を掲げ、実現に向け頑張っている。

## 活動目標と骨子

**活動目標**：各自治区、1世帯子育て世代を受け入れる  
 ～スピード感を持って活動は楽しく、やるときは真剣に！ Only～  
 ～各自治区長が熱い広告塔になっていただく事

**活動骨子**：  
 3グループ並列活動で、グループが主役の活動とする

<b>最重要</b>	<b>受け皿グループ</b>	空き家・空き地のバンク登録促進のための仕組みづくり
	<b>交流グループ</b>	子育て世代の定住促進のため、近隣都市部からの移住希望者向けの広告塔
	<b>人材育成グループ</b>	定住促進のため、地元人がしもやまの魅力を発信アピールできる人づくり

### 取材者がキャッチフレーズ

人に優しいしもやま人がもてなす「しもやまに住んでみりん！」

### 会の設立経緯と目標、モットー

平成21年の地域会議において、地域課題の解決として定住促進について検討。翌22年に各集落の代表者が一堂に会したワークショップで『しもやま住んでみりん定住促進計画』を策定。活動母体となる推進組織「里楽暮住しもやま会」が23年6月に発足。

■目標 “里”の恵みと地域の絆に包まれて、自分らしく（“楽”しく）“暮”らし（“住”み）続けられるまち（『しもやま住んでみりん定住促進計画』の将来像より）

■モットー 子供たちが、ずっと下山に住み続けたいと思ったり、外に出ても下山の魅力が語れるようになってほしい。そのためにはまず、大人が、下山を愛し、次世代を見据えた行動をしようではないか

### 設立から現在に至るまで変化したこと、その結果

はじめは手探りだったが、徐々に活動の幅が広がり、その結果、平成30年1月末時点で11世帯27名が下山地区へ移住した。また28年度のしもコンでは4組のカップル成立、うち1組が入籍した。

ここからが勝負、と、2年ほど前から目的と具体的な行動を明確にし、29年度からは“人材育成”“受け皿”“交流”の3部会構成で活動を並行して進めて行くようにしたところ、更に活動が活発になってきている。



新刊「下山地区 移住・子育てガイドブック」

【人材育成】

新成人へのアンケート調査

実際に地域出身の若者がどう思っているのか、その現実と定住促進への課題をアンケートにより明らかにした。

女性住民の定住勉強会&座談会

パパは外に働きに出て頑張っているが、地域をよく見て理解し守っているのは、地域に根ざして家事や子育てを行っている子育て世代のママ。彼女たちの意見を活動に反映させていこう、と、女性の勉強会&座談会を開催。意見交換は盛り上がり、現実をよく踏まえた真剣で具体的な意見が多く寄せられた。

下山中学校の生徒との意見交換会

下山の子どもたちが地元の魅力をあまり良く知らない、という危機感から、中学校1年生と2年生に下山の現在・未来の姿をキチンと伝えるとともに、意見交換する中で、①下山の魅力に気づいてもらい②下山の未来を託し拓いていく人材育成を実施。生徒が開発した「オリジナル五平餅」など、新3年生となった生徒自身が、「ど〜だん!!香恋の里鯉恋まつり」で発信している。

【受け皿づくり】

空き家・空き地の発掘

移住者や定住者を受け入れるための一番大きなハードルは、“衣・食・住”のうちの“住”がないこと。地域内にた〜くさん埋もれている空き家・空き地が「貸出物件」もしくは「売出物件」になっていけばそのハードルを越えることができるのだが、これがなかなか進まない。

「空き家・空き地が登録物件となること、子どもたち・孫たちのためにつながる」という理解を、地域の方々にいかに広めていけるかが、今後の活動の重要な鍵となる。

【交流】

泊まりにおいでん！inしもやま

下山地区で田舎暮らしを体験してもらうことを目的に、お寺で1泊2日の宿泊イベントを開催。100の言葉より1回の体験は、下山の本当の良さ(地域の人とのほんわかしたふれ合い)を実感してもらえるだろう。

婚活イベント「しもコン」

地域の独身男性と地域内外の独身女性とが実際に出会える場づくり。29年2月のしもコンでは、4組のカップル成立、うち1組が入籍するという快挙を達成。残念ながら30年2月のしもコンは参加者不足により中止になってしまった。

現在の最重要課題と今後必要なもの

地域には空き家が沢山あるが、実際に貸し出し可能な物件として空き家バンクに登録されているものはまだ一部である。移住希望者に対して物件が少ない、という最も厳しい現実がある。

そのためには、各自治区の区長さんやサポーターの皆さんが旗振り役になってもらい、空き家を物件にしていくよう地域全体で盛り上がっていく、真剣かつ明るく前向きな元気が必要。



子育て世代の定住勉強会&座談会の様子

泊まりにおいでん！inしもやまの様子

### ■下山に起きていることは他の地域にも起きること

「子どもたちに下山の魅力を訊ねると、自然が豊かだ、という答えがよく返ってきますが、更に『どんな自然が豊かなの?』と訊ねると、具体的に答えられないんですね。」という倉地会長の言葉に、正直、私もドキッとしました。

私自身は自分の田舎の良さを、どれだけ具体的に話せるだろうか…生まれ育った地域のことをどれだけの人に分かっているのか…

下山地区の諸課題は、日本の多くの地域に共通するものであり、その課題を自分達の地域らしく乗り越えて行く姿、里楽暮住しもやま会は日本における一つのロールモデルを作って下さるのではないかと、という期待に、私の鼻は膨らんでしまいました。

### ■理論的な会の活動

こういうボランティア的活動は、ともすると思いだけで走り活動が拡散・散逸したり、成果が現れ皆にもてはやされるようになると本来の目的を見失ない慢心に陥ることがままあります。

しかしながら、現在の里楽暮住しもやま会のデータに基づく活動の進め方は、このまま続いていけば確実に「“里”の恵みと地域の絆に包まれて、自分らしく(楽しく)暮らし(住み)続けられるまち」にどんどん近づいて行くだろう、と思います。お話を伺って、本当に感心しました。

### ■倉地会長のキャラクター

とても印象的だったのは、倉地会長の話す姿でした。見た目はクールでとてもリアリスト、理論に裏打ちされたクレバーな活動の原動力は大好きな故郷と将来世代へのホットな思い。

また、倉地会長はこれまで生まれてこのかた60年以上にわたり下山にずっと住み続け、また某大手企業に勤めていた頃から「ミネアサヒ」を無農薬・無化学肥料でこだわり栽培した特別栽培米「香恋(かれん)の田んぼ米」をしもやまブランドとして生産する活動を実施されてきたとのこと。

まさに、「香恋の里しもやま」への地元恋、いや、地元愛に生きる、誰よりも真剣なリーダーです。

### ■前向きに、前向きに

「“里”の恵みと地域の絆に包まれて、自分らしく(楽しく)暮らし(住み)続けられるまち」を目指して…

『しもやま住んでみりん定住促進計画』に記載される「里楽暮住しもやま会」の語源となった言葉は、フンワリしてとてもキレイですが、一方で、今、下山が直面している課題を解決することは綺麗事ではないでしょう。

でも、その大変な課題を地域一丸となって克服し、子どもたち・孫たちに「こんなに魅力的で素晴らしい故郷なんだぞ〜」と、大勢のお年寄りが誇らしげに闊歩する下山が見られるのか!と思うと、とてもワクワクします。

ワクワクな結果を目指す上で、下山地区は今一度の「地域の絆」が試されているのだと思いますし、下山なら必ず乗り越えていける、と期待しています。



会の事務局がある豊田市役所下山支所にて  
倉地会長(右)と取材者(左:近藤)



倉地会長オススメ 下山支所近くの食事処  
「洋食の店ふる〜る」のランチを食す取材者(清水)